



### 第4号

発行 宝木地域づくり推進協議会

宝木地域コミュニティセンター内

(事務局)

〒320-0065 宇都宮市駒生町3364-29

(宝木小学校内)

TEL・FAX 028-624-0531

(印刷) DTP de-co

(題字 北條信男 書)

## 宝木コミュニティセンター改築 計画概要固まる

宝木地区コミュニティセンターは、昭和五十四年一月建築以来二十九年経過し、老朽化も進んでいるところから改築することになり、このほど建設事業のスケジュールがおおよそ固まりました。

まず建設場所は、宝木小学校の校庭東側正門付近とし、明年三月までに設計、明年秋に建設工事の着工、平成二十二年二月完成、同年四月供用開始の予定となりました。詳細設計は、これから地区内の各種団体の代表者による建設委員会で検討することになりますが、別の場所に建設するため、現在のコミュニティセンターは明年度も使用できることとなります。



▲新コミュニティセンター建設予定地

## 地域づくり推進協議会 防犯部会発足

今年の七月二十五日、宝木地域づくり推進協議会に防犯部会ができました。

宝木地域内の自主防犯の活動をされている各組織の代表が集まり、「宝木地区内にある防犯活動自主団体間の連絡連携と防犯に関する情報等の共有化を一層図るために防犯ネットワークを構築し、児童生徒の安全確保と安心安全な街づくりを推進するため必要な事業を行うこと」を目的に設置することになり、地域防犯活動として、①児童生徒の登下校時の立哨・声かけ等の防犯活動装備品の充実、②環境点検の実施、③防犯に関するネットワークの構築を主な事業とすることになりました。

防犯については、警察との連携も不可欠であります。宝木地区内には、宇都宮中央署防犯連絡協議会の各支部があり、それぞれに防犯連絡所があり、防犯連絡員に委嘱されている方々がおりますので、各交番・駐在所との連絡連携について宇都宮市と中央警察署で地域状況を勘案して一定の方向性を見出すよう要請しているところであります。

実行可能になりましたら宝木地域づくり推進協議会防犯部会としても青色防犯パトロールを行いたいと考えています。

#### 防犯部会役員

#### ●防犯部会長

杵淵 広(一一二自治会長)

長・防犯連絡会陽西支部長)

#### ●副部会長

本田 清二(駒生団地自治会長・体育協会会長)

副部会長

#### ●副部会長

四ノ宮茂樹(青少年・子ども育成会会長)

も育成会会長)

# 自治会めぐり ③

## 宝木一三自治会

私達の住む宝木一三地域は、宇大附属特別支援学校の西側に位置し、自治会は一九八世帯、二十三班で構成されています。

戦後、宅地化が進められた地域で、自治会は昭和二十九年、旧国本村が宇都宮市に合併した際、宝木一三町会として独立しました。ゼロからのスタートでしたが、昭和五十一年には全世帯からの寄付金で、町会の「要」である公民館を新築し、地名にちなん

で「下原公民館」と名付け、現在も自治会をはじめ各種団体の活動拠点として、有効に活用しています。利用団体の中から、みんなで歌おう会が、昨年度の宝木地区敬老会でコーラスを披露し、今年度は、

琴宝会が大正琴の演奏をして、琴の響きを楽しんでいただきました。

自治会では、毎月第一土曜日に定例の班長会議を開き、連絡事項の周知や意見交換などを行い、情報の共有化を図っています。

また、「きれいなまちづくり」の一環として、雑草が生える時期には定期的に、人が集まる公民館周辺、ゲートボール場、公園などの草とりを行い、毎回六十名前後の皆さんに協力をいただいています。

体育部は近年、育成会の若い世代と積極的に対話を進めた結果、行事への協力者が増



2008.08.31

え昨年度は、宝木地区一般野球大会に十数年ぶりに出場でき、更に今年度は、婦人簡易バレーボール大会にも出場するなど気運が高まり、反省会では、自ずと仲間同士の会話も弾み、来年の健闘を誓い合いました。

自治会の自慢は、「長寿会」という老人クラブです。会員数は七十四名と多く、年間の行事も多彩で活発に活動を進めています。

その中に育成会や子供会との交流行事があり、夏休みの

### 宝木一三自治会役員

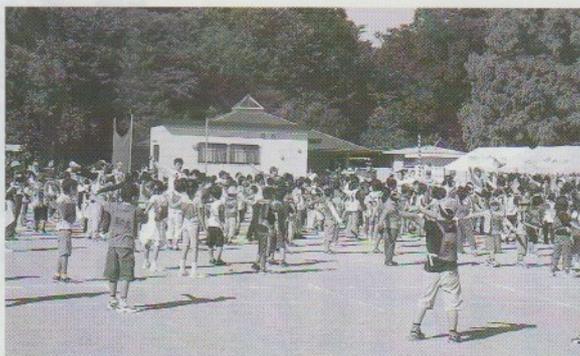
- 会長 大久保恒夫
- 副会長 渡辺 憲郎
- 堀野 道子
- 文蔵 鐵也
- 寺山 睦夫
- 佐々木俊英
- 中里 武
- 渡辺 悦男
- 渡辺 憲郎
- 寺山 睦夫
- 伴 純子
- 芝崎 慶子
- 長寿会会長 白井 君江
- 婦人防火長 白井 君江
- 民生委員 渡辺 悦男
- 体育委員長 寺山 睦夫
- 育成会会長 伴 純子
- 長寿会会長 芝崎 慶子
- 婦人防火長 白井 君江



2008.08.31

### 平成20年度 球技大会成績

開催日	種 目	優勝	準優勝	第3位
6月 15日	ソフトテニス	西中丸	2-2	2-1
〃	卓 球	西中丸	1-2	2-1
6月 22日	婦人簡易バレーボール	2-2	西中丸	1-2
〃	野 球	2-2	西中丸	1-2・1-3
7月 6日	ソフトボール男子	2-2	宝木団地	1-2
〃	ソフトボール女子	2-2	西中丸	1-2
9月 7日	バレーボール男子	2-2	1-2	宝木団地
〃	バレーボール女子	2-2	1-1	西中丸
10月 12日	体 育 祭	2-2	2-1	1-2



▲体育祭

# 長寿を祝う敬老会開催

九月十四日(日) 宝木地区敬老会がコンセール(青年会館)で盛大に行われました。今年度の該当者は昭和九年四月一日以前に生まれた方で、年齢と同じなので小学校の同級生と顔を合わせることが出来ました。今年は一、一四八名で前年より八十二名の増と



なりました。長寿を祝う式典のあと各自治会から、胡弓、大正琴、三味線演奏やフラダンス、民謡、舞踊などの演芸の披露があり、立ち見の方も出るなど、会場一杯の二三〇名の出席者が元気に楽しいひと時を過ごしました。

# 地域づくり推進協議会

## 環境部会研修会

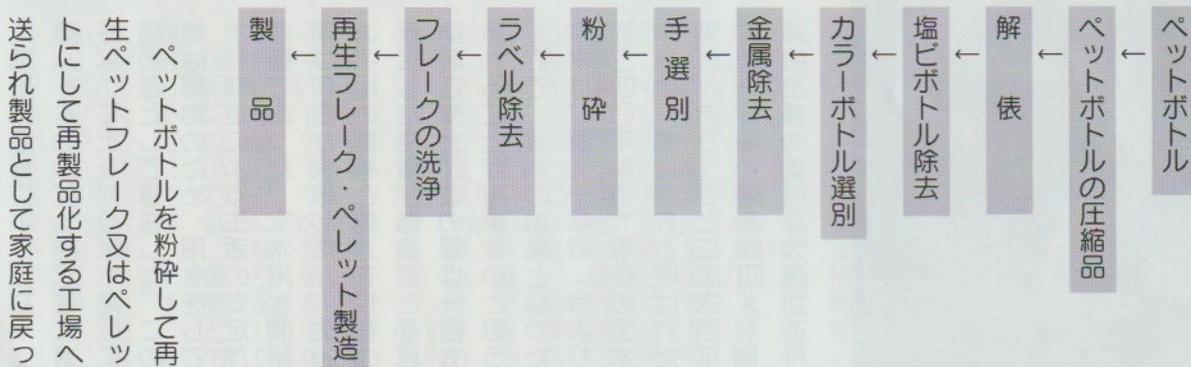
ペットボトルリサイクル工場見学のため、九月三十日バスで鹿沼市深程に所在する「ジャパンテック宇都宮工場」へ向かいました。

道すがら市の環境部ごみ減量課より会社の概要の説明があり四十分程で会社に着いた。

小高い山の上に位置し環境抜群なところであり、まず会社の営業課の方に案内され、二階会議室でビデオにて会社の概要を視聴し、その後ペットボトルがニュープラスチックに変身するまでの行程の説明がありました。



### 行程図



ペットボトルを粉砕して再生ペットフレーク又はペレットにして再製品化する工場へ送られ製品として家庭に戻つ

て来ることになります。

工場見学は会議室側面のシャッターを開けることによりペットボトルからペレットになるまでの全行程が一望できました。

見学ののち工場をあとに帰路にいたが、帰りの車中参加者全員から感想が述べられ、それぞれ短時間であったが有意義な施設見学であったと好評を得ました。

ごみ減量課の皆さん大変お世話になりました。

### 環境部会役員

部会長 一〇一 岩上光宏  
リサイクル推進員

- 一〇二 杵淵 広
- 一〇三 文蔵 鐵也
- 二〇一 深津 邦弘
- 二〇二 中村 英夫
- 二〇三 田村 保之
- 三〇一 今井 利男
- 三〇二 山下 孝佳
- 三〇三 西中丸 阿部 清
- 三〇四 新井 里子
- 三〇五 東中丸 永岡あけみ
- 三〇六 宝木細谷 鹿嶋 晋
- 三〇七 駒生団地 本田 清二

# 宝木の歴史 (下)

## 宝木用水

宇都宮藩士 佐藤伝平は、用水の開拓に心を用い、篠井村を通り徳次郎を経て宝木に達する水路を開こうと計画したが中途にして故障。安政二年(一八五五)二宮尊徳の考案に基づいて再び田川分水の工事を起こしたがこれまた竣工にいたらず、安政五年(一八五八)八月、岩崎長左衛門は父儀右衛門と計画し、二宮尊徳のかつて設計した田川分水により新堀を開削することを決し、幾多の障害を排除し、高谷林、仁良塚、足次、藤岡、西岡の五か新田の人々と共に開削に従事することになった。岩崎長左衛門、渡辺富蔵等は、用水口の地元徳次郎宿の名主に水田開拓のため用水堀開削のことを談判、大いにこれに賛同し、この工事は二宮尊徳の門弟である目下真岡代官所手代 吉良八郎に相談するよう助言された。そこで、吉良の徳次郎出張をお願いし、仁良塚名主の岩崎長左衛門と西岡名主の高橋勇左衛門が事情を説明したところ吉良は、水

田開拓の美拳に賛成し、応分の助力を約束した。しかし尊徳の起工した場所は、その分水よりおよそ三百余年間隧道になっていたため、これを掘削に改めたほか古堀が埋没した数十町を改修し、三里余の堀削を開削するには、その費用は少なくとも二〇〇両は必要とのことであった。これに岩崎長左衛門、高橋勇右衛門は、即座に四〇両を調達することを承諾し、生命をかけて成功を期すことを誓った。

## 分水工事

安政五年(一八五八)十一月宇都宮藩に実地見聞願いを提出したところ、更に真岡代官所に回送、翌安政六年(一八五九)三月同代官所より吉良八郎を遣わして測量させ、宇都宮藩より勅定奉行 縣元吉等を派遣してこれに立ち会わせ、徳次郎地内田川分水により十か新田を経て駒生村中丸の溜池に落水することにして踏査を結了、同年四月吉良八郎監督のもとに起工した。



篠原喜三郎

## 吉良八郎

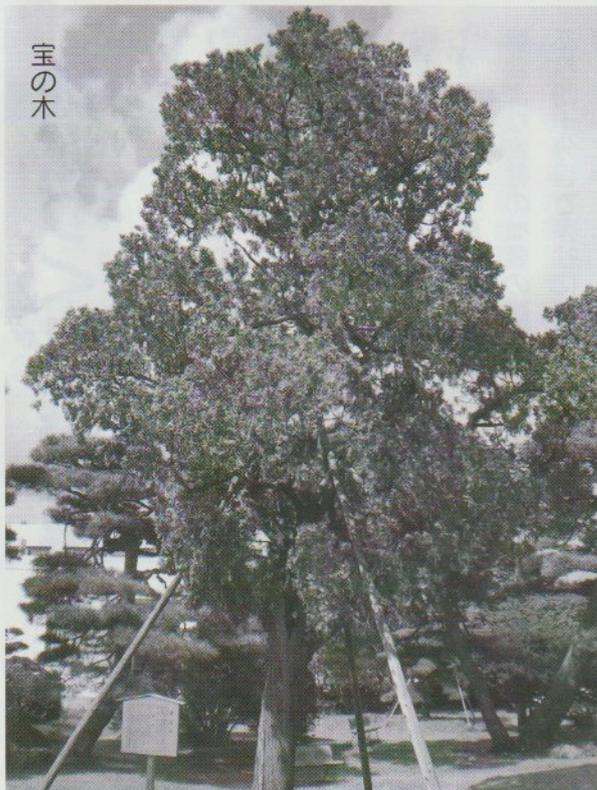
吉良八郎は二宮尊徳の門弟だけあって身をもつて衆を率い、毎朝七時に起きて胡麻味噌の朝食をし勤勉努力をしたので、工事は意外に進み安政六年(一八五九)六月をもって開削は竣工、七〇余町歩を灌漑、念願の水稲栽培に成功した。

## むすび

宝木地区入植者は、上野国(群馬県)邑楽郡に長年居住し営農していたが度重なる渡

良瀬川の氾濫により寛文十二年(一六七〇)七月永住に適さないことを知り宝木地区に開拓者として移住した。この地は畑地のため、用水をして水稲栽培による生活の安定が悲願であった。宝木用水開削前は何度か失敗したが、先祖の不屈の精神と努力で現在の安定した生活があることを思い起こすと、この恩は一日も

忘れることが出来ないと思う。さて、宝木の由来となった本木は、寛文十年頃(今より約三四〇年前頃)現在の宝木地区の一部に六軒と呼ばれた集落があり、ここに広さ百平方メートル、高さ約四メートルの古墳のような大塚があり、



宝の木

そこに一老木があった。名の知れぬままこれを当時の住民は「宝の木」と呼んでいた。

明治五年(一八七二)土地区制が施行され、六軒付近十集落が併合され、この老木「宝の木」の名称にちなんでこの地区を宝木村と称した。この「宝の木」は字細谷の「荒井庄一郎氏」の所有であったが、明治四十年(一九〇七)宝木地区内に宇都宮第一四師団司令部設置の際に司令部の庭木として荒井氏から寄贈移植され現在に至っています。

地名にもなった「宝の木」は、現在国立病院機構栃木病院入口の駐車場管理所のすぐ北にあり、推定樹齢四五〇年の「コノテカシワ」で周囲一、一メートル、樹高八メートルの樹勢の良い大木です。

## 編集後記

宝木だよりも四号を迎え、自治会の活動や宝木の歴史に触れる事ができ、奥行きのある広報紙になってきました。

さらに、行事の紹介にとどまらず、新しい活動の方向も示し、宝木地区の明るい未来が見えてきたのを感じます。